



豊中市教育センター
〒560-0033 豊中市蛍池中町 3-2-1-600
TEL 06-6844-5290
FAX 06-6840-8127

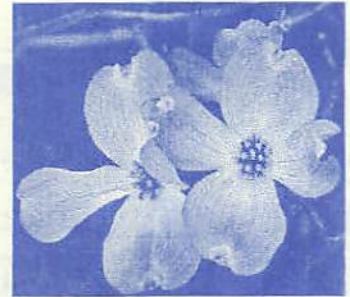
平成 17 年 (2005 年) 5 月 18 日 第 13 号

にこやかな笑顔に見送られて

春の風に後押しをされながら、バス停に向かう朝の道。

日本がアメリカに桜の花を寄贈した返礼として贈られたという花水木の盛りも過ぎ、今はつつじが色鮮やかに咲いている道。

季節の移ろいを感じながら坂道を下っていくと、背を丸くし、帽子をちょこんとかぶり、首から携帯電話を下げておられるいつものおばあさんが、小学校へ登校中の子どもたちに「おはよう。気をつけて行ってらっしゃいよ。」と、にこやかに声をかけておられます。そして、名前も知らない私にも「おはようございます。行ってらっしゃい。」と見送ってくださいます。とても温かい笑顔で見送りをしていただくことは、大人の私にも心地よく仕事に向かう活力も沸いてきます。



子どもたちには、あたり前の風景なのでしょうが、このように、朝早くから見守ってくださる方が地域にいらっしゃることは、保護者や学校にとっても心強いことではないでしょうか。特に、新しい環境となる学年初めの緊張し不安定な時期や、少し気がゆるみ緊張に疲れるころに、子どもたちの登校を見守ってくださることは、ありがたいことです。

学校園では、子どもたちだけでなく、新任や転任の先生方も新しい環境にそろそろ慣れた頃でしょうか。年々、初任者が増え、初めて講師になられた方も多数おられるなか、教職経験が 1~4 年目の先生が増えてきました。学校園では、十分配慮されていることと思いますが、教育センターにとりましても、これからの豊中の教育を担っていく先生方に一層の支援を行うことは、重要な仕事であると考えています。授業研究についてのお尋ねは勿論ですが、教育相談等についても教育センターに声をかけてください。あのおばあさんのように、にこやかな笑顔で対応させていただきます。(榎本)

研究・研修係から

◇豊中市を東部北部中部南部の4ブロックにわけて研究授業を含めた校内研修を公開していただいています。各学校園が日頃取り組んでおられる実践をとおして、幼・小・中の異校種間交流を含め、様々な視点から様々な年齢の豊中の子どもたちを見つめませんか？

研究授業の公開をお願いします！

◇まだ公開されていない学校はぜひお願いします。

⇒ ブロック別交流研修（アカデミー研修）

◇若い世代の先生方が増えてきました。

ベテランの先生方にはこれまで培ってこられた指導方法や智恵を若い教職員へ伝えていただき、豊中の教育における財産を

バトンタッチしてほしいと思います。⇒ 若手教員へのヒント集を作成します！ご協力をお願いします。

若い世代へバトンタッチを！

◇豊中の先生方が日頃取り組んでおられる授業実践等をどんどんアピールしませんか？



授業実践論文を募集します！



◇研究協力員新制度になって3年目に入ります。

昨年は59名の方が協力員となって、各教科の研究を深め、

1月には報告会を行いました。

研究協力員募集！

豊中の子どもたちにつけたい力を各教科・領域部会で追究しましょう！

今年度もたくさんの方に参加していただきたいと願っています。

◇教育センターが実施しています各研修については、研修一表を参照してください。

出あい、ふれあ

豊中市教育センター
 ぞれ連携しながら、
 だれもが魅力ある授
 あい、子どもの喜ぶ姿
 でも、この願いは、
 のではありません。せ
 を4つの係がそれぞれ
 していきたいと考えて
 や研修の一部を紹介
 さあ、教育の広場で
 れあい、学びあいまし

養護教育係から

◇特別支援教育って何？いつから始まるの？

特別支援教育コーディネーターって？

国をあげて今、養護教育が大きく変わろうとしています。

特別支援教育の推進を図る事業を始めます。

障害児教育研修 11月25日 講師：愛媛大学 花熊暁先生

特別支援教育は、支援の対象が、通常学級に在籍する軽度発達障害の子どもも含まれます。通常学級の先生方や保護者を対象にした特別支援教育についての基礎講座です。

特別支援教育コーディネーター養成研修

年間通じ5回で行います。学校で特別支援教育の推進をする方に専門性を高めていただく内容の研修です。

専門家チームによる学校支援

学校で、軽度発達障害の子どもたちへの支援や対応に困られた時に、専門家の先生方がアドバイスできるような体制を準備中です。

継続した巡回相談

対象の学校園を絞り、専門家による年間4~5回の継続した巡回相談です。

後日、希望の学校園を募ります。

QRコードというバーコードの
 右のコードには、教育センタ
 ールアドレス、URL、電話番
 が書かれています。携帯電
 もご利用いただけます

教育相談係から

◇教育相談係では、相談業務のほか、教育相談研修・ジュニアメイト（学生カウンセラー派遣事業）等を行っています。今年度より教育相談総合窓口を設置し市民への対応の充実に向け取り組んでいます。

◇教育相談研修

まずは、子ども理解からはじめませんか？

第1回研修日：5月24日

「子どもたちの心の声が聴こえますか？」-スクールカウンセラーから見た子どもの心の育ちとその理解-
大阪府スクールカウンセラー・スーパーバイザーより、子ども理解と子どもへのかかわり方や対応の仕方について具体的なお話をさせていただきます。

第2回研修日：7月26日

「子どもの学習のつますきを見る視点は？」-子ども理解と視機能からのアプローチ-
最近、軽度発達障害に関する相談が急増しています。

こんな子どもさんはいませんか？

- ・文字を書くことが苦手（文字のバランスがとれず、似たような文字を間違える等）
- ・本読みが苦手（文字や行をとばしたり、よく読み間違ったりする）
- ・運動が苦手（よくこけたり、ボールをキャッチしたりできない）

1. 学びあい

は、4つの係がそれぞれを展開しています。子どもとの心のふれあっています。

一々に実現できるもターでは、そんな願い業務を通してサポートします。センターの業務もします。

多くの方に出あい、ふ

情報・科学教育係から

◇情報・科学教育係では、子どもたちの「情報活用能力」の育成、「わかる授業」の実現にむけ、とよなかスクールネットの充実、デジタルコンテンツの活用や校内LAN整備などの事業に取り組んでいます。

また、「タッチ・座・サイエンス」（子ども科学振興事業）や理科教育の充実を図り、科学教室、親子理科講座など子どもの興味関心を喚起できる催しや授業で活用できる研修を展開するなどのサポートをしていきたいと考えております。

お知らせ現在アスキーメールのユーザー名とパスワードの準備をしています。準備ができ次第お送りさせていただきますので、ご利用下さい。アスキーメールは mail.toyonaka-osa.ed.jp にアクセスし、ユーザーとパスワードを入力し、ご利用下さい。

◇情報・科学教育係の研修の一部を紹介いたします。

- 実験・観察の基礎やヒントを習得したい！・・・理科教育研修
- サツマイモ・ジャガイモなど？どうしたらいいの？・・・理科教材研修
- 環境学習のヒントをつかみたい！・・・環境学習研修
- もう一度学びたい・とよなかスクールネットって？・・・情報基礎研修
- 情報化を展望した授業を考えたい！・・・情報活用研修
- 情報基礎の授業でこんな内容をとりあげては？・・・技術・家庭科研修

このごろ見かけるこの模様は何？



一種一のものなど話等で

耳をすませば

カウンセラーとして子どもに出会う時、心がけていることが一つあります。それは、子どもの「声」に耳をすませ、その「声」に合わせていくことです。

ある不登校のAくんに出会った時のこと。彼はぼさぼさの前髪で目元を隠し、上背のある身体を窮屈そうに縮めて私の前に立っていました。「はじめまして。」そっと声をかけると、彼は黙ったまま、ほんの少し身を硬くしました。私はさらに声を落とし、ゆっくりと名乗ることにしました。「森下です。ここに来るのは初めて?」「はい、初めて、です。」やっと聞いた彼の声は、想像よりもさらにはかなく、消えそうでした。「よく来たね。」これ以上ないほどのささやき声で伝えると、彼は初めて、額に落ちた前髪の隙間から、ちらっとこちらを見上げました。

暗い映画館から外に出た時、真昼の日差しが目にしみるようなものでしょうか。私たちがごく自然な声かけが、ひきこもった心には強過ぎることもあるようです。私の地声は高めで、緊張すれば早口にもなります。それだけに、彼らに会う時は、自分の声だけが浮かないよう、ボリュームを落とし、落ち着いたトーンで、ゆっくりと話すよう意識します。初対面の相手と「話」を合わせるのは難しいもの。そんな時、こちらの「声」や「間のとり方」を相手のそれに合わせるのは、共感を伝える一つの方法なのです。

そして、このやり方には、もう一つメリットがあります。「声」には、その人の心の状態がとてもよく表れるのです。Aくんの消えそうな声に合わせてゆくと、彼の心のエネルギーがいかにかれているか、いかに自分を押し殺し、伝えたいことを伝えられずにいるかが実感されます。



言葉と声のギャップに気づくこともしばしばです。どんなに言葉で「学校に行きたい」と語っていても、弱い声には無理があり、硬い声は本音から遠いのです。その時は、単に学校に行く、行かないではなく、本人がいきいきと柔らかい声で語れるような対話をまず目指すこととなります。その方向に、本人が元気を取り戻し、登校に結びつくカギがあるのです。

春の朝に響く鶯のさえずり、春の夜の悩ましい猫の声。生き物はその「声」で愛を語り、相手に呼びかけます。人はともすれば言葉だけに耳を奪われますが、「声」はそれ自体多くを語り、つながる手立てをも私たちに示してくれるのです。

さあ、耳をすませてみませんか？

(森下)